



# 「下瀬谷小・日向山小」小規模校 再編検討委員会 NEWS

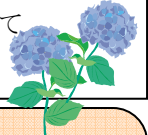
「第 2 号」  
平成20年6月26日  
発行: 検討委員会事務局



「第2回」検討委員会 開催  
★平成20年6月10日(火)19時から  
★下瀬谷小学校「コミュニティスクール」

## 「次 第」

- 1 開会
- 2 第1回検討委員会の内容説明
- 3 議題
  - (1) 第1回検討委員会での質問と追加回答について
  - (2) 磯子区「さわの里小学校」の施設見学を終えて
  - (3) 各団体等からの意見について
  - (4) 今後の方向性について
- 4 その他
  - (1) 下瀬谷小及び日向山小の施設見学について
  - (2) 次回の日程について
- 5 閉会



## ～決 定 事 項～

- 「第2回」再編検討委員会において、下瀬谷小と日向山小の再編統合について各団体よりそれぞれの考え方や意見等の報告があり、議論した結果、**検討委員会として「再編統合」することを決定**しました。
- 「第3回」再編検討委員会は、両校の施設見学を行ったあとに、引き続き、開催することを決定しました。  
【議題】  
★統合に関する基本的な考え方 ★各検討項目の検討順序 ★統合校の設置場所 ★統合校の再編時期 ★その他  
※次回(第3回再編検討委員会)の委員会は、平成20年7月5日(土)13時30分に、「下瀬谷小学校」に集合し、施設見学を行い、終了後「日向山小学校」へ移動、施設見学の後に検討を行うこととします。

## 議題

### (1) 第1回検討委員会での質問と追加回答について

事務局より、第1回検討委員会において出されました質問に対して、当日回答できなかった部分についてお答えをさせていただきました。

【質問1】平成20年4月1日に港南区の「野庭小と野庭東小」が統合され「野庭すずかけ小学校」として開校したが、その後の教育委員会の学校への支援、児童の様子、地域・自治会等への支援について詳しくお聞かせ願いたい。

#### 【回答】

#### ◎統合後の学校に対する支援

- ◆統合したばかりの新校であるため、現在、学校からの支援要望等はありませんが、要望等があった場合は速やかに対応していきます。
- ◆施設面では、昨年度に児童用の男女別更衣室・カウンセリングルーム・個別支援教室を新設・増設し、情報センター・図書室・ランチルーム・普通教室及び給食室前のホールや階段を明るく改修しました。今年度は校舎の外壁塗装を予定しています。

#### ◎統合後の児童の様子

- ◆統合まで概ね1年程度あったことから、両校の交流活動が数多く行われ、全体的にはスムーズに統合が行われたと考えているとのこと。
- ◆旧野庭小の児童は、これまで単級で過ごしてきた学校生活から、多くの子どもたちの集団となったことで、当初は「とまどい」もあったようですが、教職員が全力で対応しているとのこと。
- ◆多くの児童は、友だち関係の輪が広がっているようで、新しい友達といっしょに、毎日元気に登校しており、校長としても嬉しく思っているとのこと。

#### ◎地域・自治会への支援

- ◆現在、具体の要望はありませんが、要望等が出された場合は、教育委員会としてできるだけの対応を行っていきます。

【質問2】平成20年3月卒業の横浜市立小学校から私立中学校への進学率はどうなっているのか。

#### 【回答】

- ◆横浜市立小学校の私立中学校への進学予定者は5,819人(前年度5,922人)で、全体の19.0%(前年度18.7%)となっており、0.3ポイント高くなっています。
- ◆私立中学校進学予定者の割合が高い区は、「青葉区 32.0%」、次いで「都筑区 25.2%」、「港北区25.1%」となっており、昨年に引き続き市北部3区が上位を占めています。
- ◆私立中学校進学予定者の割合が最も低いのは、南区で10.4%となっています。(前年度瀬谷区9.5%)

【質問3】日向山小学校が下瀬谷小学校から分離新設した時点での通学区域は、現在と変わっていないのか。分離新設する前は日向山小学校の学区域の児童は、下瀬谷小学校に通っていたのか。

【回答】◆そのとおりです。

## (2)磯子区「さわの里小学校」の施設見学と意見交換を終えて



馬場副委員長より施設見学の報告がありました。

### ①施設改修状況

- \*教室の扉を取り払ったオープン教室のスタイルを取っているようで、全体的に開放感を感じました。
- \*改修箇所には、道志村の間伐材を使用しており、廊下や階段部分は色使いも含めてかなり工夫されているようでした。
- \*教室や廊下など暖かさを感じるすばらしい教育環境となっていました。

### ②統合までの児童・PTAの状況

- \*両校の先生方が連携しながら、両校の児童による学区内探検や合同体育等数多くの交流活動を行ったようです。
- \*「学校が無くなる」というのは子どもも大人も寂しい気持ちは当然にあるが、教員や保護者が全力でカバーしていかなくてはならないという話がありました。
- \*いかに子どもたちの不安を取り除いてあげられるかを、時間をかけてさまざまな角度から話をしてきたようです。

### ③統合初年度の児童・PTAの状況

- \*一例の紹介でこれまで引込み思案だった児童が、人数の多い学校となり、前の学校には無かったプラスバンドに入ったことで、楽しく活発に活動しているとのことでした。
- \*友だち関係は人数が多くなったことから、たくさんできているとのことでした。
- \*PTAの役員決めについては、両校のPTAがなかなか一つになりにくく苦労したとのことでした。

### ④統合して1年経過しての現在の児童・PTAの状況

- \*人数が増えたことによる「児童間の人間関係」や「PTA活動」についてもコミュニケーションを取りながら進めているようで、現在これといった問題はないとのことでした。

### ⑤その他

- \*統合するにあたって通学路の整備は、整備の必要な箇所が無かったため行っていないようです。
- \*統合後の通学距離は、2km以内になっているようで、遠い子どもでも25分程度で問題ないとのことでした。
- \*校歌の作詞は坂田校長で、校章の作成は旧氷取沢小の樫永校長とのことでした。元両校の校長が新しい「さわの里小」のために作成されたとのことでした。

### ～全体的な感想～

- ◎統合についての方向性を早めに決定することで、児童間及びPTA間の交流活動を進める時期も早くなり、交流期間もより長く時間が取れると思います。
- ◎仮に統合することになれば、保護者や地域の方々、並びに先生方には淋しい思いや多方面に渡りご苦勞をおかけすると思いますが、現在の子どものため、そして未来の子どものより良い教育環境を確保していくために、我々が知恵を出し合いながら決断していくべきと考えます。

### 【網代委員長】

- 統合決定から開校まで1年2ヶ月の期間があったことから、両校の先生方が事前の交流活動や統合後の教育方針、子どもたちへの対応方法などについて十分に検討し取り組まれたとのことでした。保護者や地域の方々の協力もあって昨年4月の開校を迎えられ今日に至っていると感じました。
- 私どもも下瀬谷小・日向山小の小規模化対策ということで、再編検討委員会を開いているわけですが、仮に統合となった時は保護者や地域としても協力体制をしっかりとっていきたいと思います。
- さわの里小学校の坂田校長より「統合はさまざまな面で大変なことが起きてくる。教員、保護者、地域や教育委員会を含む行政がしっかり協力しあうことが大切」とのお話がありました。また、再編統合を経験した学校として、何かお役に立てることがあればいつでも協力させていただき、とのお言葉もいただきました。有り難く思っております。

- 質問** 「旧氷取沢小学校」の跡地について、学校開放事業や地域防災拠点は今後も継続しているのか。
  - ◆**回答(事務局)** これまでどおり「暫定利用」という形で、学校開放及び地域防災拠点を継続しています。本格利用の決定まで統合後おおむね2年から3年の検討期間が必要なため、それまでの間の暫定利用ということになります。
- 質問** 暫定利用の運営はどかが担当するのか。
  - ◆**回答(事務局)** 学校施設ではなくなるので横浜市の市長部局の管轄になります。無人の学校となることから不法侵入やいたずら防止策として、フェンス設置等の対策を行います。学校開放については、地域の方が主体的にこれまでとほぼ変わらない形で運営を行うこととなります。
- 質問** 下瀬谷小と日向山小の開校が昭和50年と昭和55年の5年間の開きがあるが、耐震強度について伺いたい。
  - ◆**回答(事務局)** 両校の耐震工事はすでに終わっており、阪神淡路大震災以降、横浜市は耐震補強について再検討を行っております。学校の施設については、耐震改修促進法の基準よりもさらに高い基準で耐震工事を行っており、より安全性の高い強度となっています。

### (3)各団体等からの意見について



【芦澤副委員長等】☆日向山小の保護者会で出された主な意見の紹介

～先日学級委員が主体となって保護者の方々に集まっていたいただき、率直な意見をいただきました～

- 大手を振って統合に賛成というわけではないが、「統合はしかたがない」というのが保護者の方々の意見です。
- 統合され「学校施設」でなくなった場所はどのように使われるのかははっきりしてほしいとの意見もありました。他区でも統合後、跡地利用が決まっていないところがあると聞いていますが、そのようなことにならないようにしてほしい。
- 統合が決まった時点で、並行して跡地利用についても検討を進めてほしい。
- 下瀬谷小と日向山小の温度差がある。下瀬谷小側の保護者から“下瀬谷小に来るんでしょ”と言われた保護者もいる。同等の立場で「新しい学校を作る」との思いになってほしい。
- 統合が決まった時はどちらの学校を使うにしろ、まず「通学路の安全」が整ってから「新しい学校」をスタートさせてほしい。通学路の安全に対する保護者の不安はとても大きくて、是非この問題について考えていただきたい。
- 仮に統合することが決定し、その後、どちらの学校を統合校にするかを決める際には、「教室数」だけで決めるのではなく、「校庭の広さ」や「周りの環境面」等さまざまなことを考慮しながら、子どもの育つ環境の良いほうを考えてほしい。
- 昨年教育委員会主催の説明会の時に、“教室数から設置校は下瀬谷小になる”と説明を受けとめた。日向山小の保護者の中には同じような受けとめ方をされた方々もいます。下瀬谷小の保護者の方にも同じような受けとめ方をされているようで、学校外でその方と会ったときに統合の話題になり、お互い気まずい思いをし、それが引き続いて子どもたちにも統合に関して不安を募らせている状況がご家庭にあるという意見がありました。
- 意見** 両校の保護者はそれぞれさまざまな不安があると思う。今後両校の保護者を対象とした説明会なり意見を交換する場所を設定することはないのか。このように再編検討委員会で議論しているので、保護者の意見だけで決められるものではないと思うが、事務局の考え方を伺いたい。

#### ◆回答(事務局)

- 再編統合と跡地利用について、同時に検討を進めてほしいということですが、今現在、統合についての方向性と再編統合の設置校がまだ決まっていないうちで、跡地利用の検討はできないと考えます。今後、再編検討委員会としての結論が出てから跡地利用の検討をするべきと考えます。
- 跡地利用が決まるまでの期間ですが、学校施設は概ね1万㎡規模を有しているため、今後行政としての活用ニーズを庁内で検討するとともに、地域にとってより良い活用方法を地域の皆様とも相談しながら決めていくことになるので最終決定までに2年から3年くらいかかることをご理解いただきたい。
- 通学安全の策がすべて決まってから統合すべきという意見については、関係部署・機関との調整もあり難しいのが現実です。本委員会で統合することが決まれば統合まで1年から1年半の期間があるので、その間でできることは行っていきます。
- 設置校の決定基準については、これまで行ってきた他地区の例では「学校規模及び施設状況」「通学区域の中の学校の位置」「通学安全」「通学時間・距離」等を勘案しながら決めてきた経緯はあります。本検討委員会においてもこれらを含めて十分な議論をお願いしたい。
- 「保護者の意見を伺う」ということですが、昨年1年間を準備期間ということで両校の保護者の方々にそれぞれ説明させていただきました。現在、両校の関係者代表の方々に組織する再編検討委員会をほぼ毎月開催し、議論を積み重ねている段階であることを踏まえたくえ、保護者説明会の開催の必要性については、検討委員会として議論していただきたい。

◆**回答(馬場副委員長)**「安全な通学路の確保」については、昨年より「ひなた山地区自治会連絡協議会」として多くの時間をかけて議論をし、一定の結論に至っている。保護者の方々の要望についても、十分理解しているところであり、連絡協議会としても責任を持って関係機関に働きかけを行い、進めていくことは保護者の方々に話をしています。

●**意見** 再編統合はこれからも10年・20年・30年と市内全域で続くと思う。下瀬谷小と日向山小が統合したとしても、将来的にはまた小規模校になると考える。5年先だけを見るのではなく10年先、20年先も考えるべきではないか。

◆**回答(馬場副委員長)**最近の新聞等にも将来的には、少子化が進む中では統合されていく学校が多くあるのではないかと出ていたが、今それについて議論する場所ではないと考えます。10年先、20年先は誰も答えられないと思います。

#### 【吉田委員】

- 「さわの里小学校」の施設見学をさせていただき、坂田校長の話を伺って背中を押された思いがしました。
- それを踏まえて、下瀬谷小としては、統合することは子どもたちのためになると確信したので再編統合を望みます。
- 下瀬谷小のPTAとしては「子どもたちの未来のために」をキャッチフレーズに日々活動を行っています。
- 数年後には確実に児童数が減っていくことを考えると、両校の関係者による検討の機会を得たこの時期に決断することが両校の子どもたちのためになると考えました。
- すべての方々にいろいろな思いはあると思いますが、未来の子どもたちのためにここで決断して再編統合が良かったと思えるように後の時間を費やしていったほうが良いのではないかと考えます。
- 施設見学で意見交換の最後に教育委員会より「精一杯努力します」という言葉をいただきました。一所懸命やっただけると認識しました。

#### 【芦澤副委員長】

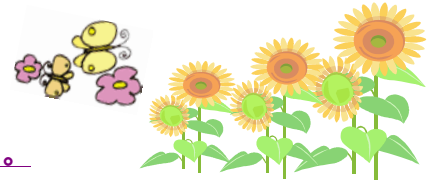
■日向山小としても統合に関しては認めざるを得ないと考えています。やはり児童数が少ない現状では、人との関わりも少ないしクラス替えもできない状況を「よし」と考えているわけではありません。

#### (4)今後の方向性について

##### 【網代委員長】

- 両校それぞれの意見を伺いました。日向山小では諸手をあげて賛成というわけではないですが、子どもたちのことを思うと、いたしかたないのではないかと、という方向で考えているという話をいただきました。また下瀬谷小からも、先の見学会に参加して、児童のために、この機会に統合に向けて努力するべきではないか、という意見をいただきました。ここで再編統合についての方向性について、皆さんにお図りをさせていただきたいと思いますがどうでしょうか。
- 両校とも、「新しい学校を作っていこう」という思いに変わりはありませんが、それぞれ伝統ある学校であり、再編統合によってその歴史を閉じなくてはならないという寂しさは、保護者や地域の皆様も同様にあると思います。しかし、これまで話があった「現在そして将来の児童のため」にも「より良い教育環境を確保していく」という観点から判断を仰ぎたいと思います。

☆委員の皆様より拍手で承認をいただき  
**検討委員会として両校を統合することに決定しました！**



<次回以降の検討項目について事務局説明>

**事務局から次回の議題（案）について説明・提案があり次のとおりとなりました。**

次回の議題

- ・統合の基本的考え方について
- ・検討事項の順序の決定について
- ・統合校の設置場所について
- ・統合校の再編時期について



～その他の意見・質問等～

- 質問** 設置場所について、次回決めないといけないのか。  
◆**回答(網代委員長)** 次回、絶対決めるということではなく、主たる議題として議論するという事です。
- 意見** それぞれの地域の方々の思いはあると思うので、住民からのアンケートを取って意見を集約することを提案したい。
- 意見** アンケート結果から、「統合賛成・反対」あるいは使用する学校は「〇〇小学校」と出てくれば、議論が振り出しになり、この検討委員会の意味が無くなる。地域住民の意見の吸い上げは自治会の役員である我々がしっかりそれぞれの話を伺いながら、リーダーとして判断していかなくてはならない。
- 意見** アンケートを取るのであれば、日向山小側と下瀬谷小側で同時にやることになる。そうなれば下瀬谷小側の世帯数が圧倒的に多いし、数の問題ではないのでアンケートは取るべきではない。
- 意見**  
□客観的な立場から言わせていただくと、統合校の位置は両校を合わせた学区でほぼ中央にあるほうが良いと思う。  
□施設整備については教育委員会が力を入れてくれると言っているし、通学安全についても馬場副委員長から責任を持って対応するという事なので、ここは大きな気持ちを持って考えていただければ良いのではないかと。  
□アンケートを取る段階ではない。この検討委員会ができたというのはそれまで両校への説明会等を踏まえてできたと考えている。したがって検討委員会で結論を出すべきだと考える。

- 質問** 設置場所の検討を行うに際し、何をもちて検討し決定すればいいのかを教えてください。  
◆**回答(事務局)** 「通学区域内の学校の位置」や「増築の必要性」「小中連携教育・一貫教育ができるか」「校庭の広さ」等がこれまでの事例では検討の要素となっています。ハード面とソフト面を勘案しながら判断していくことが必要と考えます。



##### 【次回の施設見学と第3回検討委員会の日程】

★平成20年7月5日(土) 両校の施設見学 13時30分に下瀬谷小へ集合、第3回検討委員会16時より日向山小市民図書室

「下瀬谷小・日向山小」小規模校再編検討委員会の経過、横浜市の基本方針等はホームページでもご覧いただけます。

- ・基本方針など <http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/gakku.html>
- ・「下瀬谷小・日向山小」小規模校再編検討委員会 <http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/kadaikibo/index4.html>



「下瀬谷小・日向山小」小規模校再編検討委員会は、常に皆さまからのご意見をいただいております。

FAXかEメールにて、事務局までご連絡ください。

\* 検討委員会事務局 \*  
横浜市教育委員会事務局学校計画課

FAX : 045-651-1417 / Eメール : ky-seya@city.yokohama.jp / TEL : 045-671-3253

